

未来に生きて働く探究力と省察性の育成

道徳科の本質

道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて、道徳性を養うことを目標としている。道徳科は、道徳教育でとらえた道徳的諸価値を補充、深化、統合する計画的・発展的な学習により、道徳的実践力を育成する要となる時間として位置付くものである。

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める学びを大切にいく必要がある。

道徳科の目標及び育みたい探究力と省察性

道徳科の目標	よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
育みたい探究力	自己の生き方について、自己を見つめ、自己の経験や友達の考え、これからの自己の生き方と関連させながら考えを深めようとする資質・能力
育みたい省察性	他者の視点を持ちながら自らの道徳的価値理解や自覚状況について再度問い直し、自己の生き方について考えを深める資質・能力

道徳科・領域における探究的な学びのイメージ



探究力と省察性を育む指導

道徳的実践を力とする道徳性を育成するためには、よりよい生き方について探究する「探究力」と自らの探究を調整・改善しながら進めるための「省察性」を育む必要がある。そのためには、一つの道徳的テーマについて、いくつかの関連する価値を、複合的・関連的につなぎ合わせ考える複数時間・複数価値追求型の単元形式による道徳科授業にすることが重要である。まず、テーマに迫るための道徳的問題に気づき、道徳的課題の設定と共有を行う。次に、多面的・多角的な道徳的テーマへの追求そして、テーマにかかわる道徳的価値の理解と自覚化を通して、テーマにかかわる道徳的実践への共有化を行うことで道徳性を養う。

研究の評価

研究内容で取り組んだ授業実践の中での子どもの言葉をもとに、研究の成果と課題を明らかにしていく。その際に授業での子どもの言葉やふり返りの記述などの子どもの表現物を用いて研究の質的評価を行う。また、実践意欲や態度につながったかを学校生活全般の行動の記録を適宜とったり、子ども自身が自己の成長の生き方についての振り返りを記述したりしながら、検証する。

